



※ “つるみん” 平成26年度第38回鶴嶺祭『ゆるキャラグランプリ』でグランプリを受賞。1年2組小山田夏芽さん、鬼塚麻未さん（旧クラス）の作品で、その思い（願い）は、3つ。・「世界中を飛んで、鶴嶺の名を広めている鶴」・「好きなものは笑顔と思いやり」・「鶴高生と協力して、世界中を笑顔にするのが夢」です。

楽しい文化祭でしたね。2年生は修学旅行があり、高校生活の大事な思い出作りです。3年生は進路の本気モード全開です。調べたいこと・勉強したい時に図書館を有効利用してください。1年生は良書を読める時期です。沢山の文豪が待っていますよ。みなさんの読みたい本のお手伝いをさせてくださいね。 司書



◆新着本は入口の横です。



◆手話・点字本です。



◆新しく購入した手話の本です。

今月のおすすめ本 (司書 ver.)

『平気で暴力をふるう脳』デブラ・ニーホフ【著】吉田 利子【訳】草思社【出版社】NDC 491 (蔵書あり)
今、ストーカー、家庭内暴力、些細なことにキレること怖い事件が多発しています。では、どうしてかなの問いに参考になる本です。脳のなかで何が起きているのかの研究で見えてきたことを知ると、早いうちに手を打つです。

高校時代読んだ本 4 5 6 7 9 10 11 12 1 2 3

『理系教科担当者が勧める本』

高校を卒業してから三十五年以上が過ぎ去り、部活動にかまけて授業に置いて行かれない様にするのがやつの日々を過ごしていた事以外はあまり記憶になく、高校三年次から理系クラスにいたこともあり、高校時代に読んで印象に残った文学作品等は（とても恥ずかしいのですが）全く思い出すことが出来ません。もつと恥ずかしいことに『東海の小島の磯の白砂にわれ泣きぬれて蟹とたわむる』という有名な石川啄木の短歌を読んでも私は作者の心境を全く理解出来ず、蟹と言えは飼育観察することが食べることしか思いつきません。ですので、有名な文学作品や評論以外で思いついた『勧める本』を書かせていただきます。

まず雑誌であれば、『ニートン』や『ナショナルジオグラフィック (日本版)』等が挙げられます。写真や図表が豊富で説明も難しくはなく、理系進学希望でなくても十分に理解出来ると思います。理系大学進学希望者であれば学部・学科に関係なく『大学への数学』は外せません。毎号購読する必要はありませんが、大学に入学するまでに一度は読んでおいた方が良いでしょう。また、理系進学希望者で学部・学科の選択で迷っているのであれば、大学を調べるだけでなく興味や関心のある業界紙 (新聞・雑誌) を読むと参考になると思います。

書籍では (偉そうに書きますが)、少し背伸びをして自然科学や社会科学等の名著と呼ばれる著作にチャレンジして欲しいと思います。例えば自然科学であれば、『種の起源 (ダーウィン)』・『ロウソクの科学 (ファラデー)』・『ホーキング、宇宙を語る (ホーキング)』・『二重らせん (ワトソン)』…、社会科学であれば『資本論 (マルクス)』・『人口論 (マルサス)』・『ツアラトウストラはかく語りき (ニーチェ)』… これらの書籍は大学のゼミ等で読むこともあると思いますが、まとまった時間がとれる高校生のうちに読んでみるだけでも早過ぎると思いませんか。また、一部を読んで理解するだけでも読む価値はあるかと思えます。冬休みにでも試してみたいかがでしょうか。

- ①『種の起源』ダーウィン【著】光文社【出版社】
- ②『ロウソクの科学』ファラデー【著】角川書店【出版社】
- ③『資本論』マルクス【著】日経BP社【出版社】
- ④『人口論』マルサス【著】光文社【出版社】
- ⑤『ツアラトウストラはかく語りき』ニーチェ【著】角川書店【出版社】

理科 K.K.